

令和 7 年度

事業報告

－ 「学び」と「遊び」の活動交流拠点 －



前橋市児童文化センター

－ 目次 －

令和7年度 事業の概要

I 運営目標	1 ページ
II 令和7年度の重点施策の実施報告	
1 交通・天文・環境教室の充実	1 ページ
2 自然体験活動の充実	3 ページ
3 科学・文化芸術教育活動の充実	4 ページ
4 遊びの充実と多世代交流の推進	7 ページ
5 施設管理	9 ページ
6 予算関係	10 ページ
7 その他の実施事業等	10 ページ

令和7年度 事業の概要

I 運営目標

こどもたちの文化活動の中核として、科学的な原理・法則や環境保全について総合的・体験的に学ぶ活動や、文化芸術に触れたり自己表現をしたりする活動、交通安全教育、多様な体験や交流活動の機会の充実等に係る事業などを行い、多様な人とかわりながら、個性を生かし、夢に向かって主体的・創造的に活動するこどもの育成を目指す。

II 令和7年度の重点施策

1 交通・天文・環境教室の充実

(1) 交通教室の充実

[目標・ねらい]

- 全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に自転車教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。
- 幼稚園・保育所(園)・特別支援学校等を対象に歩行教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。

[令和7年度重点の状況]

① 小学校・中学校・特別支援学校

- ・自転車に不慣れな児童の練習の場を設け、引率者が指導できるよう、乗り方の助言、職員配置等の工夫、指導方法の改善に努めた。
- ・自転車に乗る経験が少ない児童のため「親子自転車乗り講習会」を開催し、操作習熟を図った。

② 幼稚園・保育所(園)等

- ・入園、入学後の安全な登下校のため、年長児等を対象として道路の歩行を重点に実施した。

【実施状況】

- ・小学校4・6年 : のべ94校 187回 5,174人
- ・中学校・特別支援学校 : 3校 3回 40人
- ・幼稚園・保育所・こども園 : 園所 36回 873人
- ・親子自転車乗り講習会 : 3回実施 (2月28日、3月7日、14日) 計37人

◇交通教室の評価(事後調査)

- (1) 4年生 : 学習内容が学校のねらいに即したものになっていた 98%(47/48)
交通安全に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 98%(47/48)
- (2) 6年生 : 学習内容が学校のねらいに即したものになっていた 100%(46/46)
交通安全に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 98%(45/46)
- (3) 園所等 : 学習内容が園所のねらいに即したものになっていた 97%(31/32)
交通安全に対するこどもたちの意識・関心・意欲・態度が高まった 91%(29/32)

(2) 天文教室の充実

[目標・ねらい]

- プラネタリウムの機能を活用した天文教室を実施することにより、こどもたちの宇宙や天体への理解を深め、観察への意欲を高める。
- 実際に天体を観察するこども天文教室を実施することにより、こどもたちの天体に関する興味・関心・意欲を高める。

[令和7年度重点の状況]

① 小学校

- ・事前打合せによる理科の授業の現状把握と、学校ごとの実態に応じた展開や理科授業者の参加を引き続き促すとともに、充実に向けたタブレット PC を含む ICT の効果的活用方法を含め内容の改善に努めた。
- ・こども天文教室では、実際の天体観察を通して宇宙や天体への興味・関心の向上を図るとともに、学校の理科学習の振り返りにつなげられるよう努めた。

③ 幼稚園・保育所（園）等

- ・Web ページでの情報提供や事前打合せ等による適切な番組選択、実態に応じた星空解説に努めた。

【実施状況】

① 学習投影

- ・小学校 : のべ93校 185回 5,076人
- ・中学校・特別支援学校 : 実施なし
- ・幼稚園・保育所（園）等 : 園所54回 1,253人

◇天文教室の評価（事後調査）

- (1) 4年生：学習内容が学校のねらいに即したのになっていた 98%(46/47)
天文に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 98%(46/47)
- (2) 6年生：学習内容が学校のねらいに即したのになっていた 100%(46/46)
天文に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 100%(46/46)
- (3) 園所等：学習内容が園所のねらいに即したのになっていた 100%(46/46)
天文に対するこどもたちの関心・意欲・態度が高まった 100%(46/46)

② こども天文教室

- ・児童文化センター及び富士見公民館、大胡公民館で実施：4回実施 86名参加

(3) 環境教室の充実

[目標・ねらい]

○児童文化センターの自然や施設、学校の環境を活用した主体的・対話的な環境教室を実施することにより、学校における環境教育の充実を図り、環境に対する児童の関心・意欲を高める。

[令和7年度重点の状況]

① 各学校の教育課程に対応した柔軟な事業対応

- ・実施内容を家庭に周知し、家族と一緒に環境を考えられる教材の充実を進めた。
- ・学習展開、教材などを指導担当者で話し合い、内容の充実をさらに図った。
- ・児童文化センターの自然や施設を利用した環境教育を推進するために、「児童文化センター環境マップ」の活用方法を検討し、周知を図った。

② 学校の環境教育充実のための外部との連携強化

- ・教科や環境教育に「環境教室」を位置付けるよう引き続き依頼し、ニーズに応じた支援を実施した。
- ・学校教育課と連携し、環境教育主任会への情報提供や教育内容に関わる支援に努めた。
- ・専門的知識を持つ外部の担当者等と連携し、より深い学びを実現した。

【実施状況】

①環境教室

小学校：46校（96回）実施 2,552人

実施したプログラム（4種類）	実施校数	実施学級数	実施人数
「空気のよごれを調べよう（窒素酸化物調査）」	9校	20回	569人
「水のよごれを調べよう（COD調査）」	4校	7回	185人
「絶命危惧種のすんでいる環境を調べよう（守ろう！前橋のメダカ）」	27校	57回	1,482人
「自然エネルギーを生かした発電の仕組みを調べよう（発電方法等）」	6校	12回	316人

◇環境教室の評価（事後調査）

5年生：児童の環境に対する意識・関心・態度等を高めた 98%（46/47）

自校の環境教育の充実につながった 100%（47/47）

②学校への環境教育支援等

小学校9校（メダカ受精卵配布：9校）

③情報提供

環境教育に関する研修会「児童文化センターにおける環境教育支援」（1月23日）

2 自然体験活動の充実

【目標・ねらい】

- 効果的な活動例の提示や活動内容についての相談などを行うことにより、学校等の児童生徒主体の自然体験活動を支援する。
- 活動内容に合った人材の紹介や自然体験活動講師の派遣等を行うことにより、学校や林間学校における自然体験活動の推進を図る。
- 教員に対する自然体験活動の研修を実施することにより、自然体験活動の充実を図る。

【令和7年度重点の状況】

① 学校対象

- ・事前・事後の活動の進め方や有効活用への助言、具体的アドバイスを行うなど、積極的なコーディネートを進めた。
- ・指導の展開事例を再検討し、児童生徒がより主体的に取り組み、関心や意識を高められるようさらに内容の充実を図った。
- ・講師や事例の紹介などで、林間学校以外の自然体験活動も推進した。
- ・講師と連携作成した「森のパワーを探してみよう」を活用した実践事例を評価・検証し、さらに内容の充実を図った。

② 一般市民対象

- ・業務委託により、自然観察会やネイチャークラフト、親子トレッキング等を実施した。

【実施状況】

①学校対象

○小中学校林間学校

小学校第5・6学年および中学校第1学年 実施時期：5月～11月

○小中学生自然体験活動支援事業

小中学校が行う自然体験活動に対する講師紹介と講師派遣および講師謝礼支払

- ・令和2年度実績：小学校30校、中学校2校（一日自然体験活動）
- ・令和3年度実績：小学校41校、中学校8校（一日自然体験活動）

- ・令和4年度実績：小学校 64 校，中学校 16 校（林間学校，その他の自然体験活動）
- ・令和5年度実績：小学校 71 校，中学校 18 校（林間学校，その他の自然体験活動）
- ・令和6年度実績：小学校 71 校，中学校 18 校（林間学校，その他の自然体験活動）
- ・令和7年度実績：小学校 76 校，中学校 20 校（林間学校，その他の自然体験活動）

○林間学校の使用施設

小学校：赤城少年自然の家 1 校，国立赤城青少年交流の家 30 校，その他の施設 15 校

中学校：赤城少年自然の家 20 校

○尾瀬ネイチャーラーニング支援事業（群馬県主催事業）

令和7年度は実施校なし

○指導者講習会の開催（赤城少年自然の家とその周辺で計画）

- ・林間学校指導者講習会（主に中学校教諭対象：23 名） 4 月 23 日
自然体験活動体験，カッター実習，施設見学，自然体験活動補助事業の説明等
- ・小学校自然体験活動指導者講習会（主に小学校教諭対象：45 名） 8 月 20 日
ネイチャーゲーム実習，自然体験活動体験，学習指導要領への位置づけと意義，実施計画案の作成（講義と実習），自然体験活動補助事業の説明等

②一般市民対象

○自然体験活動推進事業（委託）

赤城山の自然環境を活用した体験活動の推進

- ・自然観察会，ネイチャークラフト等（ぐんま緑のインタープリター協会） 3 回実施
- ・赤城山親子トレッキング等（ぐんま山森自然楽校） 3 回実施

※環境教室プログラム内容見直し

3 科学・文化芸術教育活動の充実

(1) クラブ活動の充実

[目標・ねらい]

○科学・文化芸術に関する様々なクラブ（環境冒険隊・宇宙・ジュニアオーケストラ・合唱団・演劇・発明）を実施することにより，こどもたちの個性や能力を伸ばし，人と関わる力を育てる。

[令和7年度重点の状況]

- ・豊かな体験の場，自らの成長を実感できる主体的活動の場となるよう，活動内容の精選や改善を図った。
- ・指導教員の資質向上の場として，学校教育課，総合教育プラザと連携した講師育成や一般講師の人材開拓に努めた。

【実施状況】

クラブ名	クラブ員数	実施回数・日	主な内容
合唱団	小1～中2 31人	毎週日曜日 40回実施	・同声2部合唱、3部合唱の練習 ・成長段階に合わせた合唱曲のグループ練習 ・2月8日（日）定期演奏会開催
少年少女 発明クラブ	小4～中2 前期19人 後期16人	隔週日曜日 22回実施	・発明の基礎学習 ・発明考案作品製作 ・前橋市発明考案展・群馬県創意工夫展等への出品 ※公開発明教室の実施（年2回）
演劇クラブ	小1～中3 13人	月2～4回 33回実施	・発声練習、ダンス練習等 ・児童文化センターでの発表（9月・3月実施） ・プラネタリウム番組制作に声優として参加
宇宙クラブ	小4～中3 21人	主に土曜日 10回実施	・天体望遠鏡を用いた観測会の実施及び星や星座の学習 ・プラネタリウムなどの施設設備を利用した天文学の基礎的な学習
ジュニア オーケストラ	小1～高3 48人	隔週日曜日 29回実施	・ヴァイオリン楽器演奏の基礎、基本 ・4グループに分かれての練習、合奏 ・2月8日（日）定期演奏会開催予定
環境冒険隊	小4～小6 15人	月2～3回 土曜日 18回実施	・自然の中での遊び、生き物調べ、自然観察、環境調査 ・専門家を講師に招いての体験活動 ・県エコクラブ交流会への参加（1/10 児童文化センター）

(2) 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実

【目標・ねらい】

○科学・文化芸術に関する教室（夏季教室、わくわく教室等）を実施することにより、こどもたちの興味・関心を広げ、多様な体験活動を推進する。

【令和7年度重点の状況】

- ・こどもたちの多様な体験活動の支援を行う市民活動を支援し、連携・協働・情報交流を進めた。
- ・環境教育やSDGsを視野に入れた新しい教室の実施を引き続き検討した。
- ・実施状況や内容を参加者に伝えるWebページの充実や、閲覧の働きかけを継続した。

【実施状況】

教室名	対象・人数	実施回数・日	主な内容
わくわく教室	主に小学生	16回実施	・理科・造形・音楽・科学・工作を体験する教室等（7年度は「ゲームづくりとVR体験をしよう!」、「未来の自転車を体験しよう」等を実施）
夏季教室	主に小学生	夏季休業中 10回実施	・科学・造形・文芸・歴史教室等（プログラミング、牛乳パックで動物おもちゃ、俳句、化石レプリカ等）
親子自然 体験教室	小1～小3 親子	3回実施	・覚満淵周辺の散策とカッター実習、ピザづくり等

こども公園 環境教室	一般市民	日曜日 5回実施	・こども公園の自然（野メダカ、水中微生物、植物、土の生物等）を活用した環境教室
市民天文教室	一般市民	3回実施	・10月4日「秋の美しい月を見よう！」 ・12月13日「ふたご座流星群と惑星を見よう！」 ・1月31日「月の撮影をしよう！」
プラネタリウムコンサート	一般市民	2回実施	・プラネタリウムでの星に関係した音楽の生演奏 7月6日「弦楽合奏」 12月6日「マンドリン」
親子自転車 乗り練習会	小3以上 親子	3回実施	・自転車に乗れない児童を対象とした段階的な自転車運転の指導（2月28日、3月7、14日実施）

(3) プラネタリウムの番組の制作と投影

[目標・ねらい]

- 毎月更新される自主制作プラネタリウム番組の提供と、対話型の星空解説を取り入れた質の高いプラネタリウム投影を実施することにより、観覧者の天文への興味・関心を高める。
- こども天文教室やプラネタリウムコンサートなど、投影の内容や方法を工夫することにより、多くの市民が宇宙や天文現象に触れる機会を提供する。

[令和7年度重点の状況]

- ・天文現象等の情報交換、時季に応じた星座解説などの計画的な研修により、職員の能力向上を図った。
- ・番組制作に携わる市民との連携を密にして、充実した内容で分かりやすい番組を制作した。
- ・こども天文教室でのプラネタリウムの活用や、プラネタリウムコンサートの実施方法を引き続き検討した。
- ・プラネタリウムデビューを実施し、幼児を連れた家族にも安心してプラネタリウムを観覧できる機会を提供した。
- ・4K動画を効果的に活用した番組を作成した。
- ・団体投影の対象を広げていくための周知方法を検討した。

【実施状況】

①プラネタリウムの番組制作

制作期日 4月～3月（新作6本）
 制作内容 星座のお話（星座にまつわる物語）新作3本
 天文学シリーズ（天文学に関わる基礎的な内容や話題）新作3本
 制作者 原画作成、音楽作成、台詞録音：市民・演劇クラブ団員等の協力
 シナリオ作成、音声・映像編集、投影プログラム作成：センター職員
 番組編集のプログラミングは業務委託による

②プラネタリウムの投影とその工夫

- 一般投影
 - ・投影回数 679回、観覧者数 14,528人
- 団体投影
 - ・投影回数 18回、観覧者数 671人
- プラネタリウム・チャレンジ7 6月～2月
 - ・3回（106人）、5回（44人）、7回（27人）
- 群馬県プラネタリウム連絡協議会スタンプラリー 7月～2月
 - ・県内のプラネタリウム施設9館、天文台1館の計10か所を巡り、スタンプを収集
 - ・3館（77人）、5館（6人）、10館（9人）

○特別投影

- ・プラネタリウムコンサート 7/6、12/6 各2回実施（合計272名）
- ・プラネタリウムデビュー 8/15（48人）、11/2（82人）、1/12（84人）3回実施
- ★各種メディア（ラジオ等）紹介や関連事業のチラシ掲示などによるプラネタリウムの周知
- ★新4Kプロジェクターの周知に係る取組：投影用画像の撮影

4 遊びの充実と多世代交流の推進

(1) 各種イベントや体験的な事業の推進

[目標・ねらい]

- 「わくわくチャレンジコーナー」「冒険遊び場」などを実施することにより、こどもたちの体験活動を充実させる。

[令和7年度重点の状況]

- ・こどもたちの主体性を育む活動となるよう、企画の見直し、指導内容の検討・確認、講師との事前打合せを十分に実施した。
- ・「わくわくチャレンジコーナー」指導に参画する大学生を募集してコーナーの継続に努め、体験活動を充実させるよう講師研修を継続実施した。
- ・ボランティア参画によるイベントや活動の再開を進め、体験活動の拡充に努めた。

【実施状況】

活動名	参加者数	実施日	主な内容
わくわく チャレンジ コーナー	130 回 8,318 人	土日祝日 学校休業中 9:30～11:30 13:00～15:20	・大学生サポートスタッフの発案による、幼児から楽しむことができる工作の機会を提供。 ・会場は停本所オープンスペースで継続実施。新たな講師学生を増やすため、各大学への呼びかけ、ボランティア学生の参画勧誘を図った。
冒険遊び ゾーン	293 日 35,923 人	毎日	・土日祝日・長期休業期間に寄贈品を含む各種の遊具利用提供を実施した。また、木造遊具の安全確保のため、職員による日常点検実施、保全措置のほか、2月末に技術知見を持つ専門団体による定期点検を実施し、必要に応じ適切な修繕を実施した。 ・夏季の高温対策として、猛暑日については遊具の開放を中止した。
停本所	306 日 1,616 人	毎日 (10月蔵書整理期間除く)	・「わくわくひろば」での読書推進や本の貸し出しのほか、児童文化センター事業の展示や紹介など、読書指導も行った。
前橋市 幼小中特別 支援学校等 図画作品展	29 園所 67 点 73 校 1,015 点	5～7月 7～2月	・ほしのみち「ぐるぐる美術館」に市内幼保小中特別支援学校等の幼児児童生徒の図画作品を展示 5～7月（園所）7～2月（小中特別支援学校等） （左記は参加校数/全期間の展示済作品点数）
理科研究発表 会優秀作品展	4 校 30 点	12月～2月	・市内小中特別支援学校等の理科研究発表会優秀作品を展示

こども春まつり こども秋まつり	9,643 人 6,879 人 (イベント参加者のみ)	5/3～5 11/2・3	・春まつり、秋まつりともコロナ禍以前に復しての複数日程行事として開催。合唱団・ジュニアオーケストラのコンサートをはじめとする児童文化センター側主体の催事のほか、センター建物内・公園での屋外活動両面で、センターボランティア、各方面からの応援ボランティアによる多彩な催しを実施した。
--------------------	-----------------------------------	-----------------	---

(2) 交通安全に関わる体験の充実・こども公園の活用

[目標・ねらい]

- ゴーカートや足踏みカートを運行することにより、こどもたちが遊びを通して交通ルールやマナーについて学ぶ機会を提供する。
- 芝生広場、交通学習ゾーン、大型遊具、冒険遊びゾーンなど、「学び」と「遊び」の場を提供し、こどもたちの健全育成を図る。

[令和7年度重点の状況]

- ・歩行や足踏みカートなどを活用して交通ルールやマナーが学べるよう、公園指導員を配置し、引き続き指導の充実を図った。
- ・ゴーカートの運転を実際に体験して交通ルールやマナーを学べる運用となるよう、安全性等を考慮しながら適宜検討を行った。
- ・冒険遊びゾーン内遊具は、職員の日常点検ほか適正な点検・補修を行い、安全な運営を継続した。

【実施状況】

種別	利用者数	実施日	主な内容等
ゴーカート	96,468 人	休日 9:00～16:30 平日 13:00～16:00 (11月～2月は ～15:30)	・コース上の安全確保（追突防止等）の観点から最大 5 台制限で運行した。（保有車両：ガソリン車 11 台、リース車両：EV 車 2 台） ・令和 3 年度以降導入ガソリン車 3 台を主力とし、並行して既存経年車のエンジン・主要部品更新等実施による体質改善を継続している。 ・運転は常時保護者が行うよう義務付け、指導を行った。 ・運行業務（整備含む）は業者に委託し実施した。
足踏みカート	45,905 人	休日 9:00～16:00 平日 自転車教室のない日・時間	・対象は小学校 2 年生以下。小児は保護者付添による利用が多く、人気が高い。 ・ゴーカート棟前の足踏みカート置き場に並び、園内を 1 周走って交代する形式で運行した。 ・こども公園指導員の指導と放送の効果で、マナーを守って利用する親子が多かった。

(3) 市民力の活用と多世代の交流

[目標・ねらい]

- 様々なイベントや「冒険遊び場」、館内事業において、ボランティアの会・一般ボランティア・学生ボランティアの活動の場を設定し、市民力の活用を推進する。
- ボランティアの会・一般ボランティア・学生ボランティアが交流できる場を充実させることにより、多世代交流を推進する。

[令和7年度重点の状況]

- ・ボランティアの会と情報共有や連携を図り、活動の活性化や自主的企画・運営に対して支援を行った。
- ・職場体験学習やインターンシップの充実を図るとともに、受け入れた学生等に対しボランティア活動への参加を促した。

【実施状況】

○ボランティア活動の推進

- ・前橋市児童文化センターボランティアの会（現在登録者数 78 名）
- ・ボランティア研修会の開催 1 回（10 月 4 日）
- ・「児童文化センターボランティアの会体験プロジェクト」実施 2 回（6 月 7 日、11 月 15 日）
- ・冒険遊びゾーン遊具補修
- ・音のステージ改修作業

○青少年サポート事業

中高大学生のボランティア活動のサポート

- ・共愛学園前橋国際大学長期インターンシップ 1 名（9 月 18 日～1 月 26 日）
- ・共愛学園前橋国際大学短期大学 SD チャレンジ 1 名（12 月 3 日～12 月 27 日）
- ・前橋商業高等学校短期インターンシップ 5 名（10 月 21 日～24 日）
- ・桂萱中職場体験 5 名（9 月 3 日～5 日）
- ・みずき中職場体験 4 名（9 月 9 日～10 日）
- ・群馬大学共同教育学部（わくわく教室 プログラミング）
10 月 26 日（高学年・中学年） 大学生 6 名
- ・群馬工業高等専門学校（宇宙ワークショップ） 5 月 11 日 学生 3 名

5 施設管理

【目標・ねらい】

○安全安心に利用でき、未来にわたり市民から愛される施設にできるよう、施設・設備全体の管理計画に基づき、適切な修繕等を実施する。

○公園管理事務所などの関係課と連携し、安全な環境の維持管理を行う。

【令和 7 年度重点の状況】

- ・ごみ政策課、環境政策課と連携し、熱中症予防・環境保護のため館内にマイボトルサーバーを設置した。さらに児童文化センターを夏季のクールシェアスポットに登録し、児童や来館者が快適に過ごせる環境を整えた。
- ・プラネタリウムの経年劣化した電気装置（バッテリー等）の更新を行った。
- ・児童文化センターで飼育している魚の飼育には雨水を活用しているが、雨水ろ過装置の経年劣化がみられるため塩素計、循環ポンプ、滅菌装置の更新を行った。
- ・LED 化が未実施の事務室や教室等の照明更新工事を行い、全館 LED 化を行った。
- ・こどもたちに人気のこども公園内の「ふわふわドーム」は、経年劣化により穴があくことが多くなり、公園管理事務所職員にて修理を行ってきたが、修理が困難になり、公園管理事務所にて更新に向けた検討を進めている。

【実施状況】

- ・児童文化センター雨水ろ過装置塩素計装置工事（9 月）
- ・児童文化センタープラネタリウム本体安定化電源交換工事（12 月）
- ・児童文化センタープラネタリウム電機装置交換工事（12 月）
- ・児童文化センター雨水ろ過装置循環ポンプ及び滅菌装置更新工事（1 月）
- ・児童文化センター太陽光発電装置改修更新工事（2 月）
- ・児童文化センターワークルーム 1 カーテン設置（1 月）

- ・児童文化センターLED化更新工事（3月）
- ・児童文化センター水力発電設備保守点検業務（毎年3月）

6 予算関係

【目標・ねらい】

- 予算の適正な執行管理に努める。
- 広告収入やふるさと納税等の財源確保策に継続的に取り組む。

【令和7年度重点の状況】

- ・予算化された事業費の適正な執行により、安定した施設運営や事業運営に努めるとともに、緊急時などにも適切な対応が行えるよう、関係課との連携を図った。
- ・施設の老朽化に伴う修繕や備品の購入等について、優先順位付けや内容の精査を行い、令和8年度に効果的に事業実施できるよう、予算要求を行った。
- ・ふるさと納税等財源確保のため、関係課との連携のほか事業PRなど積極的に取り組んだ。

【税外収入先】

- ・プラネタリウム広告料収入（283千円）
- ・ネーミングライツ広告収入の充当（公園管理事務所：300千円）
- ・プラネタリウムの広告に係る収入（283千円）
- ・企業版ふるさと納税（1,000千円）自転車、テントに活用（詳細：寄附受入項目）

7 その他の実施事業等

○視察・講義等対応

- ・共愛学園前橋国際大学視察・研修（6月15日） 20名
- ・群馬大学教職大学院研修（6月11日） 11名
- ・前橋市初任者研修講義：自然体験活動・参観授業：プラネタリウム（11月11日） 28名

○関係課・各機関・団体等との連携

※実施予定含む

関係課	内容	実施日等
公園管理事務所	公園施設、環境の不具合等の報告や整備、修繕等迅速な対応の連携	通年
文化財保護課	まが玉づくり教室	7月12日
交通政策課	前橋市交通安全コンクールの作品展示会場・表彰式協力	11月29日
環境政策課	環境イベント「まえばしこどもエコフェスタ」共催環境教室（5年生）への情報提供	11月22日 適宜
こども施設課	市立保育所間交流事業 バス運行協力	1～3月実施
富士見公民館	赤城山ろく里山学校実施連携（親子星空観察会）	11月28日
社会福祉課	若者の職場体験受入れ（自立支援）	5月から月1回程度

関係機関・団体等	内容	実施日等
群馬県産業経済部	「わくわく教室・ゲームづくりと VR を体験しよう！」 企画準備連携	7 月 5 日
群馬県環境森林部 サンデンフォレスト	県こどもエコクラブ交流会会場貸出 おもしろ体験をしてみ隊	令和 7 年 1 月 11 日 8 月 31 日
赤城少年自然の家、国立赤城青少年交流の家	一日自然体験活動における自然体験活動の実施連携	通年
共愛学園前橋国際大学	自然体験活動応援隊 「カレー！クイズ！クラフト！in Akagi」共催	8 月 7 日，8 日
前橋テクノフォーラム実行委員会 (市産業政策課)	「まえばしロボコン 2024」開催協力 「ロボット作り教室」開催協力	8 月 30 日 12 月 6 日，20 日
前橋商工会議所	前橋市発明考案展の作品展示会場貸出	9 月 19～21 日
宇宙教育センター 指導者(宇宙少年団)	「わくわく教室・宇宙ワークショップ」開催連携	通年
アツイぜぐんま！ こどもウクレレ祭 in 前橋実行委員会	「アツイぜぐんま！こどもウクレレ祭 in 前橋」共催	8 月 23 日
太陽誘電(株)	「わくわく教室・バスツアー 未来の自転車に乗ってみよう」企画準備連携	8 月 11 日
粕川小・おおさる山の家	赤城山ろく里山学校実施連携	12 月 18 日

○寄附受入

- ・児童向け交通安全学習用自転車（24・26インチ）計17台
- ・大型テント 2張
- ・足ぶみカート 1台、大型ホワイトボード 1基、ミスト扇風機 1台

○「野メダカを育てる会」事務局

- ・前橋メダカの保護・育成と，児童文化センターの環境整備を行うボランティア団体の事務局としてボランティア活動を支援した。（市民に野生メダカを配付 5月と11月）

○常設展示など

- ・前橋市幼児児童生徒図画作品展
※国公立幼稚園・保育所及び希望する私立幼稚園・保育園の作品も展示（平成26年度～）
- ・理科研究優秀作品展
- ・天文関係展示「プラネタリウム周辺」「ほしのみち」等
- ・環境学習展示「スペース eco」
- ・メダカ等観察コーナー「わくわくアクア」、田んぼ、ビオトープ「むつみ川」

○情報提供

- ・情報紙「わくわくキッズ」の発行6回（発行部数：約2,000部／回）
市内全小中学生に配布 他各学校，幼稚園等に掲示
市立小中学校在籍の児童生徒については，タブレット配信で提供（令和3年10月～）
- ・すぐーる，Web ページ，インスタグラム等による情報提供
- ・児童文化センターのパンフレット
- ・館内掲示板及びモニターにおける情報動画再生
- ・メディアを用いた紹介（まえばし City エフエム，旅行・タウン誌等）

○危機管理マニュアルの活用

- ・事故や怪我などの発生時に役立てるよう作成した危機管理マニュアルをもとに，館内打ち合わせにおいて全職員で確認した。
- ・災害発生時の避難訓練（11月14日）：地震・火災発生を想定した避難経路の確認をした。

○けがや病気等への対応

- ・看護師・准看護師の資格を有する窓口対応職員の配置により75人のけが等に対応し，病院紹介の必要事例が6人，救急車の要請事案は2件であった。
- ・来館者が安心して活動するための支援として有効であった。

○いつでも安心してすごせる場所づくり

- ・給水所、休憩場所、クールシェアスポットなどを設置。